

(1)評価基準に沿った評価	0人	3人	3人	0人	0人	3.5
(2)記述評価						
・旧公害指定地域(大都市部)にこの支援システムが適応できるかの確認が必要である。その地域では独居,施設入所,行政支援レベル,等々かなりの差が長崎に比較して見られる可能性が高いと思われるからである。 ・呼吸器リハが重要で有用であることは認めるが、その位置付けが過大評価で中心になり過ぎている。薬物療法や栄養への介入、身体活動度への評価方法、合併症の把握、効果の発現と病期との関係、身体機能の客観的評価などについても配慮することが望ましい。 ・どのようにすれば教室の活動を全国展開できるかの検討が出来ればなお良い。 ・この取り組みは、主に、COPD軽症例でのアドヒアランス向上に有用であった。軽症以外への対応のさらなる検討を期待する。具体的な個別対応なども。 ・COPD患者への指導システムを構築し、一定の成果を挙げている。 ・患者教室への取り組みは評価できるが、身体活動量がアドヒアランス向上の効果判定指標となり得るかについては明確になっていない。また、ウェブサイトを活用した取り組みは参加者が少なく成功していない。						